

役を預かることに、身の引き締まる思いを感じています。

私たちは、今年の9月に有志の会を立ち上げたことから始まり、その後、11月に正式に実行委員会を発足し、今日に至っております。例年よりも少し遅いスタートとなっていますが、まずは高校3年間の苦楽と共にした仲間と再会できる喜びを噛みしめながら、少しづつ準備を進めているところです。

皆様と来年度のOB祭でお会いできることを楽しみにしております。
最後になりますが、高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の更なる発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、また、来年が笑顔の絶えない年になることを願い挨拶とさせて頂きます。

コロナ禍が収まる気配はなかつたものの、社会的に「ワクチン接種」が進んでいたこともあり、感染症対策に注意を払いながら、百周年を祝する式典として、OB祭・校友祭・卒業式などを開催。また、在校生を対象とした記念公演（演奏会）・ふるさと高鍋のイメージ楽曲の作成及び高鍋高校への寄贈・ゴルフコンペを企画いたしました。記念公演（演奏会）では、様々なアーティストと関わりながら音楽界の第一線で活躍し、2007年からは、「100年後の子どもたちへ」という想いで活動を展開している「音楽家の守護神タツミ氏」をお招きし、職業

（O.B祭開催）にあたり、たくさんの方々や団体に本当に多大なるご支援やご協力を賜りましたことを、改めて甚深の感謝を申し上げます。たくさんの先輩方から頂いた、「ご恩」を次の後輩たちに繋ぎ、次年度のO.B祭が盛大に開催されますと共に、高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会のさらなる発展と学校関係者、地域の皆様のご活躍、ご健勝を祈念申し上げ、令和4年度高鍋高校O.B祭実行委員会一同からの挨拶とさせていただきます。

で学校間交流といふ形で続いている私たちの日常を変えた新型コロナウイルスの影響で、学校間交流ができない年が続きました。しかしその間も私たちの絆は絶えることなく、リモートでの交流を続け、今年は3年ぶりに沢興譲館高校の方々をお迎えして直接交流することができました。これは先輩方が残してくれた絆の象徴だと思います。創立百周年



生徒代表 長野 比翼

せて頂きました。そこでは、これまでに卒業された先輩方の強い絆に高鍋高校の歴史と伝統の重さを改めて感じ、また、時代を受け継ぐ在校生の姿に、この歴史と伝統が未来へと着実に引き継がれることを確信した次第です。令和5年はこれから次第です。令和5年はこれから100年に向けた新たな船出の年となります。このような年にOB祭に携われることに、大きな喜びを感じると共に、次

令和5年度高鍋高校O B祭
実行委員を担当します、平成
12年卒業生を代表して、ご挨
拶を司ります。

令和5年度高鍋高校OB祭実行委員長挨拶



令和5年度高鍋高校OB祭実行委員会

実行委員長 江崎 紀之

私は、今回初めてOB祭の行事すべてに出席させて頂き、そこで、たくさんの先輩方に声を掛けて頂きました。頗る知りの先輩方はもちろんのこと、初めてお会いする方からも懇切丁寧にご教示いたいたしたこと、これぞ高鍋高校だと改めて実感したところでした。世代を超えた縦の繋がり。この繋がりがあるのもOB祭があつてこそではないでしょうか。

『前途洋々』。将来が希望に

去る、令和4年11月18日（19）にかけ開催されました、令和4年度高鍋高校OB祭の実行委員会を代表して、お礼を申し上げます。思い起こせば、まだ前元号だつた平成31年3月だつたでしようか。地元に残つてゐる有志数名が集まり、「うちらの代は、高鍋高校OB祭の年に創立百周年らしいよ」と高鍋町内の居酒屋で実行委員会の前身が産声を上げ、徐々に同級生の輪を広げていきました。令和3年には、正式に実行委員会を立ち上げ、高鍋高校創立百周年記念OB祭に向けて準備や協議を進めて参りました。

私たちは、高鍋高校創立百周年を迎える年にOB祭を開催できる喜びと、先輩方が守り継いでくれたOB祭に感謝の気持と、そこから

として音楽を選択した守時氏の、「夢を持ち、続けることの大切さ」のお話いや、心に染み渡るような美しい音色のピアノ演奏をしていただきました。高鍋町に数回来て作曲していたいたい楽曲は、投影されたり、高鍋町や高鍋高校の映像も相まって、特に感動的でした。この美しい楽曲が、これから高鍋高校色々な場面で奏でられ、魅力向上の一助となれば幸いでございます。

また、地域・県内・全国でご活躍の著名な方々にお祝いコメントを賜り、動画として上映しました。動画終了後には、お笑い芸人として活躍する響の長友光弘氏がサザンライズとして登場し、在校生に喜んでいただけたのではないかと想われます。

OB祭開催に向けて、実行委員会各々が仕事や家庭を持つ中、苦労があつたことも事実ですが、高鍋高校を卒業後、それぞれが培ってきたスキルや人との繋がりを活かし、同じ目標に向かつて同級生一丸となつて取り組んだことは、まるで人生で2回目の「鳴海ヶ丘祭」を迎える

講え
書いを新たにする機
会に恵まれましたことを
在校生一同、非常にうれし
く思います。

百年という長い歴史の中で、多くの先輩方が高鍋高校を卒業されました。先輩方が築き上げてこられた高鍋高校は、喻えるなら、無限に広がる日向灘の海原のようで、私たちの可能性を後押ししてくれる波のように強くて大きな存在です。その歴史の大波に乗って、日々文武両道に励みながら充実した学校生活を送っていることを、心から誇りに思います。

高鍋高校の歴史は、江戸時代、藩校明倫堂に始まります。高鍋藩主秋月種茂公の弟、上杉鷹山公は、遠く離れた山形県米沢藩主として藩校を開き、その歴史は現在、山形県立米沢興譲館とあります。高鍋に受け継がれています。秋月種茂公、上杉鷹山公の

私は、高鍋高校の校歌が大好きです。校歌の歌詞の中には、「誰もがクワクするような大きな1ページを刻む」と書かれており、美しいハイモニードで歌い上げることができます。尾鈴の山と日向灘、雄大な自然に囲まれた学校名が入っていないこと、男女でパートが分かれています。また、唯一無二の存在感として高鍋高校のプライドを感じます。

本校の校歌には、伝統の重みと唯一無二の存在感、そして高鍋高校のプライドを感じます。尾鈴の山と日向灘、雄大な自然に囲まれた学校名が入っていないこと、男女でパートが分かれています。また、唯一無二の存在感として高鍋高校のプライドを感じます。

学び舎で、仲間とともに日々切磋琢磨し、夢の実現を目指して「青春謳歌」を決意しています。先輩たちの言葉と共に地域のみなさまのご期待に応えられるよう、今まで以上に努力していくことをここに誓います。

令和4年度 高鍋高校OB祭実行委員長挨拶



令和4年度

実行委員長 小澤 正隆

宮崎県立高鍋高等学校
同窓会

宮崎県兒湯郡高鍋町
大字北高鍋 4262
TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096
URL <http://www.narumigaoka.jp/>

事務局からのお知らせ

学校創立一〇〇周年記念事業に際し、卒業生はもとより、多くの皆様からご寄付を頂きまして誠にありがとうございました。
お陰様をもちまして、十一月十九日(土)には素晴らしい記念式典を執り行うことが出来ました。来年度の新入生からは伝統の制服もデザインエンジンし、次の一〇〇年に向けて新たなスタートを切ります。

引き続きご支援の程、よろしくお願い致します。

百周年生徒代表 誓いの言葉

事務局からのお知らせ

卷之三

今、立場が変わつて母校にいることが不思議である。高校生時代は、西都市から通っていた。きつかけは、中学時代から始めたバレー・ボールである。現在は勇退された先生からお声がけいただき、高鍋高校へ進学したと記憶している。入学してまもなくバレー・ボール部を退部した。人生ではこれまで様々な選択をしてきたが中には間違った選択もある。もしかするとその一つかもしれない。二年生に上がり生徒会に入った。こうして母校へ教員の立場として生徒会のみんなと関わつているとすごく小つぽけな公約に見えるが、その当時の私は「文化祭で校内装飾を行う」を掲げて活動をしていた。ここへ戻つてきて現在も実行委員会の中に装飾部門があることを知つて、ちよつぱり嬉しい気分。そして、生徒会に立候補したことは今的人生の糧になるほど正しい選択だつたと思う。一年生では行きも帰りも自転車で大きな登り坂を超えて、二年生では夏の暑い時期も冬の寒い時期も原付バイクで学校へ通い今がある。そして、そこで出会う出身中学校も生まれ育つた場所も違う多くの友達との出会い。学級で授業で生徒会活動で大学受験で真摯に向き合つていただいた先生のおかげでここにいる。高校生の時は中には間違った選択も正しい選択もあつた。その一つ一つが未来であり、未来は自分たちで築いたものでできていると「ここ」に立つて実感している。三年間の高校生活、挑戦し挫折、叶え、未来を創る。私も挑戦し続ける人間でありたいと思います。そんな僕もまだ青二才。